

令和4年度 実地研修会（令和2年7月豪雨の災害復旧と南九州西回り自動車道の建設）現場研修事業の概要

1. 球磨川流域における令和2年7月豪雨災害復旧事業について

令和2年7月豪雨では、球磨川の多くの観測所で史上最高水位を観測し、本川の堤防が2箇所決壊するなど、本川、支川で多数の土砂堆積や施設被災が発生した。その際、球磨川を渡河している道路橋10橋が流失し、球磨川沿いの国道219号や県道等（八代～人吉）で土砂流入や流出など各所が寸断され甚大な被害が発生した。

現在、「復旧・復興を加速し強力で事業を推進する」ため、新たな組織として八代復興事務所が開設され、令和2年7月豪雨災害復旧事業が進められている



被災の状況（国道219号 球磨村）



家屋倒壊の状況（球磨村渡地区）

①（中津道地区）球磨川河床掘削現場 熊本県八代市坂本町中津道

令和2年7月豪雨では、球磨川中流部から下流にかけて浸水被害が発生し、人的被害を含む浸水面積約1,020ha、浸水戸数約6,110戸の被害が確認された。

出水期前の令和3年5月末までに球磨川9支川の約20万 m^3 の土砂掘削を完了し、現在、護岸等の本復旧完成を目指して取り組んでいる。

八代市の中津道地区については、今後の本川水位の低減対策として、球磨川本川の「河床掘削」の施工を予定している。



球磨川支川 川内川の復旧状況

②（伊高瀬地区）擁壁設置現場 熊本県球磨郡球磨村神瀬

令和2年7月豪雨により被災した、八代市から人吉市間の国道219号等については、国の権限代行により災害復旧事業を鋭意進めているところである。

球磨郡球磨村神瀬の伊高瀬地区は、球磨川に沿った急峻な地形での施工であり、谷側部は親杭パネル壁工法（親杭とコンクリートパネル（親杭パネル））を一体化した擁壁をグラウンドアンカー工法との併用で施工している。



伊高瀬地区擁壁設置状況

2. 南九州西回り自動車道（芦北出水道路）建設事業について

南九州西回り自動車道は、八代市を起点とし、水俣市、出水市、薩摩川内市を経て鹿児島市に至る全長約140kmの高規格幹線道路である。

この自動車道の一部を形成する「芦北出水道路」は、災害時の代替路の確保や地域産業の活性化等の支援を目的とした道路で、熊本県葦北群芦北



町花岡から鹿児島県出水市下知識に至る計画延長L=29.6kmの自動車専用道路である。このうち、熊本県側のL=21.8kmと鹿児島県側のL=7.8kmを八代河川国道で整備している。

① 熊本3号水俣川橋上部工（P4～A2）工事 …………… 熊本県水俣市長野町地内

水俣川橋は南九州西回り自動車道「芦北出水道路」の一環として、熊本県側の21.8kmのうち、水俣市長野町に位置し、国道268号及び2級河川である水俣川を横断する幅10.15m、全長310mの橋梁である。

この内、今回対象となる水俣川橋上部工（P4～A2）は、2級河川である水俣川を横断する全長310mの橋梁である。この内今回対象工事は、幅10.15m、全長150.0mのプレストレストコンクリート製の3径間連続箱桁橋である。

<架設工法について>

架橋位置が河川上であり桁下の利用が制限される施工条件下のため、地上からの支保工を必要としない張出架設工法が採用されている。張出架設工法とは、移動作業車と呼ばれる架設機械を用いて、橋脚から支間中央に向かって橋体をブロックごとに張り出していく工法である。



張出架設工法(例)

